

立教大学学術推進特別重点資金 (立教 S F R)
在外研究
2011年度研究成果報告書

研究代表者	所属・職名		氏名	
	観光学部交流文化学科・教授		大橋 健一 印	
研究課題	アジアをめぐるトランスナショナルな人の移動と文化の動態に関する研究			
研修期間	2010年 9月 15日 ~ 2011年 9月 14日 (365日間)			
経費	年度経費	SFR助成額	所属学部からの補助額	合計
	2010年度	1,306,100円	850,000円	2,156,100円
	2011年度	1,077,800円	850,000円	1,927,800円
主な滞在国及び研究機関名	国名	研究機関名		
	ヴェトナム	ヴェトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学 国際文化研究センター		
研究成果の概要 (図・グラフは使用しないこと)				
<p>本研究は、グローバル化や地域統合化の中で、急速な社会経済的發展に伴い、著しい社会文化變動を経験するヴェトナムを中心としたインドシナ地域を事例として、複合的な人の移動現象とそれがもたらす「文化」構築過程の動態の解明を試みようとしたものであり、2010年9月から2011年9月までの1年間にわたるものとして計画されたものである。</p> <p>2011年度は全研究計画日程の後半に相当し、前半の2010年度の研究成果から導き出された研究の視角をさらに具体的に検討するために主として以下のフィールド調査および文献調査を行った。</p> <p>まず、当初計画において2010年度に実施を予定しながら、諸事情から実施が難航していたカンボジアにおける植民地体制と「文化」構築、および植民地遺産の観光資源化に関する現地フィールド調査を実施した。</p> <p>また、本研究における事例対象地域であるインドシナ地域におけるフランスによる植民地支配の重要性に鑑み、同地域の植民地期の関連一次資料等の文献資料調査をエクス・アン・プロヴァンスのフランス国立海外領公文書館 (ANOM) を中心としてフランス各地の関連機関において実施した。特に、これまで「観光」という視角からのインドシナ関係植民地史料の発掘、整理は一般的に十分に行われていないため、この作業を通して多くの貴重な史料、文献を見出すことができた。</p> <p>他方、本研究において着目する人の移動の複合性という観点において重要な社会主義体制下における人の移動に関して、その具体的状況を把握するため、旧東ドイツ地域諸都市におけるヴェトナム系移住者と都市空間における「ヴェトナム」の文化表象に関するフィールド調査を行った。</p> <p>さらに、社会主義体制下における人の移動とヴェトナムにおける「文化」構築の関係を、ヴェトナムから外へ向かう動きのみならず、ヴェトナムへの社会主義圏からの人の移動によっても検討する必要があるため、ハノイの都市文化景観の形成における旧ソヴィエトブロックからの都市計画家・建築家の関与について、関連資料の収集、フィールド調査、現地研究者との意見交換を通してその知見を深めた。</p> <p>これらの調査研究作業を通して主として以下の諸点が明らかとなった。</p>				

研究成果の概要 (つづき)

1) 1960～90 年代のカンボジアにおける政治的混乱を受けて、同国最大の文化遺産としてのアンコール遺跡群を除くと、特に都市部における文化遺産の管理・保護は必ずしも十分に行われている状況にはないが、近年、都市部における植民地遺産に関する関心の高まりが存在することが確認された。ユネスコをはじめとする文化関連国際機関やプノンペン市などの行政機関において植民地遺産を含む都市文化遺産への関心の高まりが見られる。また、都市における植民地遺産の実際の動態的な保存とその観光的活用は民間の商業ベースでの展開が見られ、特に宿泊業、飲食業において西欧諸国の投資家、事業家の関与が大きいことが明らかとなった。

2) 収集した歴史的諸資料から、20 世紀初頭の植民地期にすでにインドシナ地域の観光に関する多くの文献や記事が出版されていることが明らかとなった。特にそのピークは、1931 年のパリ国際植民地博覧会の開催時期とほぼ重なっている。植民地・宗主国間の人の移動の双方向性という点で、植民地現地における「文化」構築の動態と同時に、メトロポールにおける植民地をめぐる人や情報の動きが極めて重要な意味を持つことも明らかとなった。資料の詳細な分析は今後さらに加えなければならないが、収集した資料の内容からは、現代の同地域の観光の基本形、あるいはその原初的形態は、ほぼこの時期に成立していたことが明らかとなった。

3) 旧東ドイツがヴェトナムと社会主義圏の友好国であったことも手伝って、ドイツはヴェトナム系移住者の重要な移住先の一つとなってきた。このため、ドイツ諸都市の都市文化景観においてヴェトナム系移住者の営む飲食店、雑貨店の存在は日常化していることが確認された。特に飲食店にあっては、「ヴェトナム」という文化シンボルが重要性を持つため、店舗空間において「ヴェトナム」を表象する文化的表現が行われており、多くの場合そのシンボルとしてハノイの「一柱寺」の図像が多用されていることが明らかとなった。「一柱寺」は植民地期にフランス極東学院によって「文化遺産」化された経緯があり、「ヴェトナム」の文化的シンボルの構築にフランスやドイツという文脈が密接に関与していることが明らかとなった。

4) ハノイの都市景観形成において、フランス植民地時代に行われた都市計画をさらに上書きする形で旧ソヴィエトブロックからの技術支援に基づいて社会主義モデルに基づく都市計画が策定され、その一部が実施されたり、ソヴィエトデザイン建築物が建てられたことは、人に移動を伴うハノイの「文化」構築の複合性を考える上で見逃せない事実であることが明らかとなった。

キーワード (研究内容を適確に表しているものを5項目で記入)

[人の移動] [文化] [観光] [都市] [植民地主義]

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文タイトル、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

＜公開ワークショップにおける報告＞

「在外ベトナム人コミュニティにおける複合性と重層性」

(「環太平洋地域における移民コミュニティの形成1」、2012年2月4日、立教大学太刀川記念交流会館)

※この(様式2)に記入の、成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4縦型横書き1枚・自由様式)を添付すること。